

# 分け入っても分け入っても青い山(山頭火)

旧知の家族に会うため

に九月六日から一〇日、タイ北部のチェンライ最終寄港地のタイ国際航空のチケットを予約した。

携帯電話もシムフリー対応のものに変え、通話も通信も完璧の快適な旅のはず・・・であった。

が、しかし、だれもが信じえない閑空水没。

出発前日の九月五日、チケット発券会社に問い合わせしたが、タイ国際航空が欠航の意思表示をしないとキャンセル手続きすら入れないという。

ホームページでチェックすると昼過ぎに初めて

表示が出た。

すぐに手続きに入り三時間後、払い戻しも不可といわれる。次善策として中部セントレア空港に取り直しを依頼。一時間後、それも満席との連絡を受け、(失礼ながら)成田に決まる。

次なる問題は国内の移動。時間は午後五時。ネットですべて直前予約で高

くついたがANAを予約。とりあえず安心するも、夜の〇時になっても確認メールが来ない。

仕方なく出発日、直接ANAのカウンターで確認するとなぜかやはり予

約されていない。

この時点で国内便成田

行きは満席。四番煎じ?で羽田へ飛び、バスで成田へ向かい、何とか搭乗手続きを済ませる。

ここで次の問題が。帰国便はこれまた該当

日の欠航表示が出てからでないというルール。すなわち早く(欠航を見つけ)

手を挙げたものから利便性のある便(例えば名古屋着)が取れるという仕組み。

常にネットチケットを要し煩わしいことこの上ない。

しかし僥倖というべきか、出発直前に(九月一〇日の帰国便の)「欠航」

の文字が!

出発窓口のタイ国際空港の係員に事情を説明し、九月一〇日夜(十一日深夜)の中部セントレア行き航空券を確保する。

しかしこれがのちに帰国日当日の災いをもたらすことになるとはこの時知る由もなかった。

便は無事にバンコクにつき、シムも開通、データ通信もLINEもつながり、翻訳機能や位置情報で郊外の路線バスの旅にも非常に役に立った。チェンライの友人宅で



もLINEビギナーの筆者にたまたま帰省中の友人の娘がいろいろなアドバース（フルフル等）をくれたり、写真を交換したりし、また例の世界中に知れ渡ったタムルアン洞窟の救出劇を描いた壁画を見に行ったりして過ごした。

九月一日、帰国のため、チェンライ発の国内便でバンコクに行き、国際線に乗り換えようとするとき再び問題が発生。

荷物は国内線から国際線に乗り継ぐ手続きを済ませていたが、肝心の人間のパスポートコントロールを失念していた。

どうしたものかとバンコクで職員に尋ねると、ここ（バンコク）で再度チェックインし直せ、との仰せ。言われたままにカウンターに行くが、今度は「便の予約が確認できない」「Eチケットはないのか」との仰せ。土俵際に寄り切られ、俵に足がかかったような

気持ちになりながら、事情を説明し何とか踏ん張る。

この間二〜三分、筆者の後ろには長蛇の列と多くの冷たい視線が……しばらくして別の係員が来て今度は「便は満席」との仰せ。

これでは困ると、何やかや言いながら粘るとしばらくするとなぜか搭乗券が発券された。

いろいろ推測するもいまだに理由は判然としない。

ということだ冗長な文章で恐縮であるが、そろそろ第四コーナーである。

コミュニケーションツールとしての携帯は有益であり、一〇年前より世界が近くなったことは確かである。

が、しかし、友人や、その娘とも意見交換したが、ともに四歳や九歳の孫や姪御共二日間過ごしたが、子供たちは携帯をいじくりアニメやYouTubeを見たりがっかりである意味驚かされた。

携帯のない暮らしを二〜三日ただけで情緒不安定になる者もいるやに聞く。

生まれた時から携帯のある世代にはそれは空気のようなもので、ないのは不安この上ないのかも

しれない。

しかし娘のバンコクの職場でも携帯片手に食事をし、すぐ横にいる友人に言葉でなくLINEなどを通しやり取りするのは、携帯を人間が使いこなしているのではなく、逆に携帯に支配され、使われているような面もあるというの、お互いに納得するところであった。

た、だれと話した、何の情報を見つけたかなど時の権力者の手に握られ、裸同然というのが現代の紛れもない事実である。それで最後に一言。筆者は無信心者であるが、有名な聖書の一説をもじって、精神衛生上の観点からもあえて申し上げたい。「人は携帯のみにて生きるものにあらず」(MAN SHALL NOT LIVE BY MOBILE ALONE)と。

(九月一〇日夜 バンコク発中部セントレア空港行き 搭乗待合いにおいて)

田中機械支部 T

# 「4名の仲間をかえせ!」大津署抗議行動

全日建連帯労組関西生コン支部の武委員長はじめ四名の役員が不当な権力弾圧によって、滋賀県下四ヶ所の警察署に分散留置されていることに対して、九月八日(土)抗議行動が展開されました。

我が支部も連帯して、四名

が参加し、武委員長が拘留されている大津署前での抗議行

動を共に闘い抜きました。

私たちが港合同も、これまで幾多の権力弾圧を地域の支援・連帯で打ち破り、組織と運動を守り抜いてきました。だから、関西生コン支部への弾圧は、他人事ではありません。せん。

権力弾圧を絶対に許してはなりません。四名の仲間を今すぐ返せ!



間を今すぐ返せ!  
労働組合つばしを  
今すぐやめろ! 関  
西生コン支部の仲  
間に連帯して闘い  
抜く!

昌一金属支部

木下浩平